

# 学生プロジェクトチームによるサイエンスコミュニケーション活動

## Science communication activities by a university-student project team

○徳光 聖茄、手島 駿、長谷川 誠\* (千歳科学技術大学)

○Seika Tokumitsu, Shun Teshima, Makoto Hasegawa\* (Chitose Institute of Science and Technology)

\*E-mail: hasegawa@photon.chitose.ac.jp

### 1. はじめに

正課外の学生プロジェクトチームである千歳科学技術大学・理工工房は、平成 26 年度も地域におけるサイエンスコミュニケーション活動を積極的に展開した。活動の概要をあらためて紹介した上で、学生主体の活動により得られる効果を報告する。

### 2. 活動の概要

活動開始の時点から平成 26 年度末までの本学生プロジェクトの年間活動実績の推移を、図 1 に示す。学部新入生向けプログラムの実施など学内での業務も含めて着実に増加してきた活動件数は、平成 26 年度はついに年間 80 件を越えた。

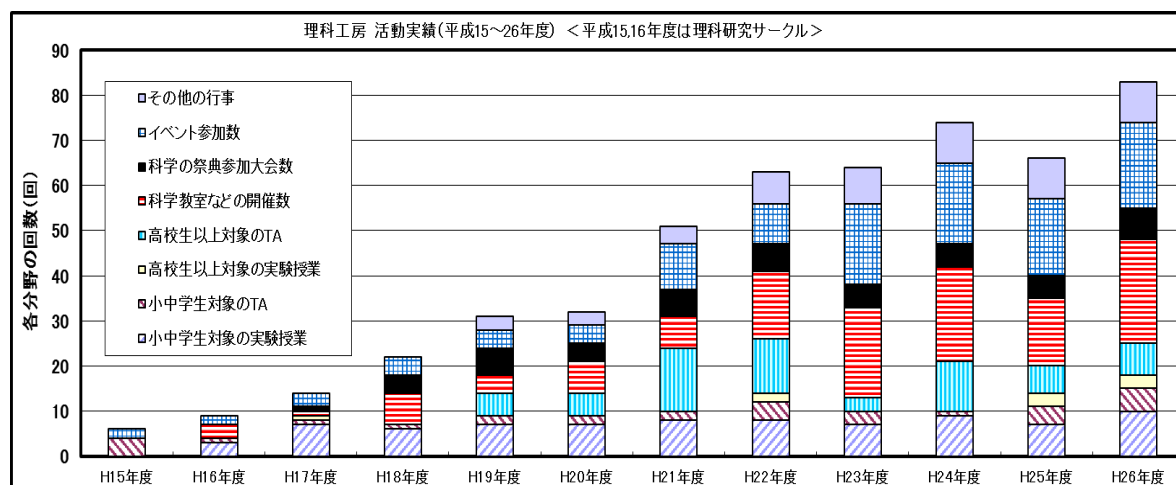


図 1 学生プロジェクト「理工工房」の年間活動実績の推移

地域におけるサイエンスコミュニケーション活動には、小中学校の授業時間での実験授業、PTA レクリエーション活動としての科学教室、児童館や科学館での科学教室、市民団体・NPO 法人・商店街・町内会等からの依頼による活動、科学の祭典などのイベントへの参加など、多岐に渡る。現場レベルの口コミによる依頼が主であるが、平成 27 年度は、千歳市内の認定こども園における 3～5 歳児を対象にした科学体験活動の実施を、市の担当課から依頼されて実施している。

個々の活動の具体的な内容の立案や準備、運営は基本的に学生メンバが主体的に担当しており、大学の教職員はサポートに徹している。学生が前面に出た活動になっていることが、数多くの活動依頼が寄せられる一因として効果的に作用している可能性がある。

### 3. おわりに

本活動では、真の連携を考える学外関係者（教育機関の教職員、科学館、PTA、市民団体、商店街・町内会など）との協力・連携関係が構築されている。今後も、参加学生の自律性・主体性を尊重した活動形態を維持しながら、活動を継続させたい。